被曳進候也、
康正三年七月十三日
とうしまやう
くせ上下

二九〇　嚴信・仁盛朔望出仕度數注文

（端裏書）「嚴信
仁盛
朔亡度數事　康正三年七月十七日」
（紙下同シ）
朔亡度數事　康正三年七月十七日勘之、
（嚴信カ）宰相公御分
康正二年十二月朔日　同三年正月　二月　三月　四月　五月　六月
七月
以上八ヶ度理趣三昧方
康正二年十一月朔日　十二月　同三年正月　二月　三月　四月
七月
以上八ヶ度論義方
都合十六ヶ度歟、
（仁盛カ）卿公御分
康正二年十月朔日　十一月　十二月　同三年正月　二月　三月　四月
六月　七月
以上九ヶ度理趣三昧方
康正二年七月十五日　九月　十月　十一月　十二月　同三年正月
三月　四月　六月　七月
以上十ヶ度論義方
都合十九ヶ度歟、

二九一　有家材木請取狀

請取申御材木事

合方八四拾丁者、

右、爲　公方御材木、且所請取申如件、

康正三年八月七日　　有家(花押)

御問丸

方八四十丁

問丸

二九二　慶佳書狀(折紙)

○以下三通ノ文書、年次詳カナラザルニ依リ、便宜ココニ收ム、

尙〻、庄本事候間、不思儀子細共候てハ(と脱カ)存候間、走舞申候、御心得さめにて候へ共申入候、

態令申候、先日者參候て、懸御目祝着之至候、仍彼礼物預御本走(奔)候ハヽ、可爲祝着候、さいそく候間、迷惑之至候、肝要ハ事無事ニ候間目出候、同ハ急度可被懸御意候、旁我〻綺懸候て延引候間、申入候、暮〻早〻之儀候ハヽ、可爲喜悅候、恐〻謹言、

禮物ノ奔走ヲ請フ

卯月廿八日　　慶佳(花押)

寒川殿

御宿所

慈濟寺領ノコトニ就キ披露ヲ請フ

二九三　某披露狀

(禮紙切封ウハ書)

「　　」

右筆不合期之子細候之間、以他筆申候、可得御意候、

雖不思寄題目候、就慈齋寺領之事、内〻存知之方、難去申子細候、可然之樣、預披露候者、所仰候、巨細此人可申給候(述候)、恐〻謹言、

九月十七日　　弼

二九四　崇朝奉書(折紙)

いろき御參あるへく候、

東寺領木持人夫ノ催促ヲ停メシム

東寺領木もちの事、寺家より被申子細候、可被閣催促候由、被仰出候、恐々謹言、

十月廿七日　　崇朝（花押）

隅田三郎右衞門尉殿

二九五　松尾社社官等連署申狀案

近郷百姓松尾社前ニ新溝ヲ掘ル

御成及ビ神輿ノ通路ヲ妨グ

松尾社官等謹言上

右、當社神前田地内新溝事、先年近郷輩、任雅意依掘破、去年被成御奉書、爲守護理之處、彼等背御下知則堀破畢、其後連々雖歎申未達　上聞之處、今度就爲西芳寺御成路次、社家皆自身罷出、致成敗理之處、件郷人等、今月四日率大勢重掘破之間、言語道斷次第也、太罪科不輕哉、如今者、向後御成敗之御通路可爲如何者乎、一社迷惑此事也、持來（將カ）十五日當宮神幸御輿迎也、是亦神輿遂乱也、自然神人諸役者、奉捨置神輿於路頭時者、公私不可然哉、所詮、本溝之在所在之、連々申入畢、嚴密蒙御成敗、全神領弥爲遂神事無爲節、連署之狀如件、

幕府ノ裁決ヲ請フ

長祿二年三月　日

三宮祢宜相久判
櫟谷祝重房同
月讀祝重康同
櫟谷祢宜相友同
月讀祢宜重富同
權祝相敦同
權神主相胤同
正祝相忠同
正祢宜相長同
神主相行同
御師相言同

二九六　山城十一箇郷雑掌等支状案

（端裏書）「就松尾訴訟十一ヶ郷申状案長祿二　四月日」

取桂河用水拾壹箇郷雑掌等謹支言上

松尾社司等掠申子細無謂条〻

一去年被成御奉書、爲守護埋溝云〻、此段以外之申状也、去年西芳寺　御成之時者、兼日依被相觸、諸郷地下人罷出作道塞溝畢、今度者、依奸訴之造意、社家蜜（密）〻致掃除歟、是非郷〻緩怠者哉、所詮、於　御成道者、爲諸郷懸橋者、更不可有其煩者也、就中用水堀付者、（足利義教）普廣院殿御代、隣郷清水・古川以下堀取土河・大藪等旱、不求證例於外者也、

一當社神輿逺乱云〻、此條抑何事哉、神幸路者、自社家申溝下隔拾町余、爭有煩哉、其上多年神幸之處、今更濫訴之結構、無勿躰者也、以是非據之企、宜有御還迹者也、

一本溝在所在之云〻、是又根本取來今溝旱、中比雖取石堂口、水便依相替、

西芳寺御成道ノ用水溝ニ架橋スベシ

神輿違亂ノコトナシ

石堂口

拾六年以來立歸本溝旱、何号新儀乎、若及御不審者、可有御糺明者也、然者、早任理運蒙御成敗、拾壹ヶ郷爲專無爲之耕作、粗謹支言上如件、

長祿二年四月　日

十六年以前ヨリ新溝ヲ使用ス

二九七　山城十一箇郷支状土代

一本溝在所在之申哉、是又若説事也、於用水者、守水便上者、更井口之事者、不可定一所歟、此上者、任理運旨、蒙御成敗、拾一ヶ郷爲專無爲之耕作、粗謹支言上如件、

長祿貳年四月　日

用水ハ水便ニ從フヲ以テ井口ハ一定シ難シ

此分認之出、

一本溝在所在之云〻、是又不可説申狀也、於用水者、守水便之間、井口之事者、難一定者也、然者早任理運、蒙御成敗、拾壹ヶ郷爲專無爲之耕作、粗謹支言上如件、

長祿貳年四月　日

二九八　上久世庄公文代寒川光康等連署書狀案

（端裏書）「就御前淵井口松尾ェ出請文」

就今井溝之儀、御取合各祝着候、仍石塔口可堀明間之事者、如以前、用水可通給候、雖然、自石塔口、若水便不叶候者、其時社家へ可申談候、此ホ之趣、預御傳達候者、本望候、恐〻謹言、

（長祿二年カ）六月十七日

寒川新左衞門尉　光康
小國豐後守　公朝
河嶋民ア丞　安久
出羽弥二郎　久忠

高畠孫衞門殿　太郎衞門

石塔口ノ通水ヲ請フ水便悪シキ時ハ松尾社ヘ申談ズベシ

革嶋二郎殿

二九九　山城守護代某奉書（竪切紙）

人夫五人早〻當陣へ可給候、若無沙汰候者、堅可有罪科候也、仍執達如件、

（譽田祥榮カ）（花押）

長祿二年十月十二日
上くせ

三〇〇　幕府奉行連署奉書案（折紙）

（端裏書）「就御前淵用水西岡郷中へノ奉書案長祿三三十七」

松尾社境内用水事、就神事去年雖被成奉書、先如元可通之旨、被仰社家候訖、於子細者、以前被取合之上者、追而可被糺決之由、被仰出者也、仍執達如件、

長祿三
三月十七日

（飯尾）之種判
（布施）貞基判

上久世庄人夫ヲ守護方ヘ參陣セシム

御前淵用水ノ通水ヲ命ズ

西岡諸給主御中

三〇一　幕府奉行連署奉書案（折紙）

（裏書）「就御前淵用水社家へノ奉書案長祿三三十七」

山城國西岡給主ホ申當社境内用水事、去年雖被成奉書、就耕作歎申間、先如元可被通之、於往古於水井水者、以前被取合上者、追而被糺決、可有御成敗之由、被仰出候也、仍執達如件、

長祿三
三月十七日

（飯尾）之種判
（布施）貞基判

松尾神主殿

松尾社境内用水ヲ通ズベシ
往古ノ用水ハ追テ糺決スベシ

三〇二　山城守護代譽田祥榮奉書案

（裏書）「譽田免除折紙案長祿三當國不入」

東寺領山城諸庄ノ臨時課役ヲ免除ス

東寺雜掌申山城國久世上下庄・上野・拜師・殖松庄ホ段錢以下臨時課役事、先々免除之上者、任御下知狀、可停止使者入部之旨、可令存知之狀如件、

長祿三
四月廿三日

譽田三河祥榮判

原七郎（觀養）殿

三〇三　久世上下庄百姓等連署起請文案

（裏書）「□□（上久）世方就德政事上下庄方へ起請事」

再拜〻〻　起請文事

一子細者、

就今度土一揆蜂起、堅致糺明之處、於當庄（上久世庄）內、張本人并与力同心之者、雖爲一人無之事

一此起請文仁判形仕人數之內、更以不加德政之衆事

土一揆ノ張本及ビ同心者庄内ニナシ

德政ノ衆同心者ヲ知ラズ

一德政之衆、同心之輩、一切不存知仕、又不承及事（於當庄仁）

一自今以後、張本人（并）同心者承及者、不日可召進其身、縱雖爲親類兄弟、不可隱蜜（密）申事、

伊勢天照皇太神

弘法大師

此條〻内、若雖爲一事僞申者、奉始上梵天、帝釋、四大天王、伊勢天照皇太神、八幡大菩薩、賀茂下上、松尾七社、平野、稻荷五所明神、春日大明神、殊當寺鎭守八幡三所、八嶋明神、弘法大師等、八大高祖、伽藍三寶、護法善神（別當庄守護藏王權現）ゟ、惣日本國中三千余座、案上案下、式内式外、有勢无勢大小神祇冥罰、各可罷蒙者也、仍起請文之狀如件、

長祿三年九月卅日

上久世庄侍分

端書

上久世侍分（侍下同ジ）……（紙繼目）

端書者、上下庄共文言

康光（光康カ）（寒川）

氏吉

道門

道仲

貞盛（利倉）

久行（繼川）

忠吉

房次

貞久

貞行

忠盛

忠行

久行（和田）

貞信

宗次

正文ヲ幕府奉行ニ送ル

同遍（篇）也、但、上久世下久世ト云注計各別也、

上下各待分与地下別帋也、

正文者、奉行飯尾左衞門大夫（之種）方被遣之早、

以上廿一人　信■成　貞俊　行平　久行（マヽ）　行久　貞吉

（紙繼目）

長祿參年九月廿日　上久世起請人數地下分

地下分

道善　常音　与次郎
刑卩三郎　衞門二郎　右近
道幸　右近五郎　太郎次郎
助九郎　太郎五郎　彦九郎
衞門　衞門五郎　四郎五郎
常連　左近　兵衞太郎

太郎二郎　助二郎　右近次郎
次郎五郎　彦六　三郎五郎
彦七　左近太郎　彦二郎
太夫　衞門四郎　孫九郎
又二郎　衞門太郎　次郎太郎
小太郎　民部　左衞門四郎
右近太郎　弥三郎　孫五郎
九郎　衞門太郎　彦太郎
右近太郎　次郎太郎　衞門二郎
五郎二郎　彦二郎　四郎二郎
右近二郎

東條

東条
太郎四郎　五郎三郎　彦九郎

南條

次郎九郎　弥五郎
彦三郎　小三郎
彦二郎　四郎三郎
太郎三郎　又七
八郎四郎　次郎三郎
南条
三郎五郎　明ゐこ
太郎三郎　衞門
左衞門二郎　次郎
与五郎　左衞門太郎
衞門三郎　衞門九郎
九郎三郎　弥九郎
以上八十四人（マヽ）

五郎三郎　三郎四郎
道性　衞門二郎
兵衞次郎　衞門三郎
左衞門三郎　兵衞
五郎四郎　左近二郎
三郎二郎

下久世庄侍分

（端裏書）「下久世分」

長祿三年九月卅日

下久世侍分

（大江）信綱
（久世）弘成
ゐ重
弘經
直經
頼重
ゑん五郎
や三郎
ゑやうゑん
さ衞もん五郎

（紙繼目）

地下分

長禄三年九月卅日　　常行　　三七〇

五郎太郎　彦九郎　彦五郎　彦四郎
五郎次郎　小四郎　成道　さこ二郎
四郎二郎　孫九郎　衛門四郎　太郎三郎
二郎　又四郎　や五郎　小三郎
兵衛五郎　左衛門五郎　九郎五郎　右近二郎
彦太郎　兵衛四郎　新三郎　孫太郎
弥太郎　太郎三郎　藤三郎　善ゐこ
二郎五郎　三郎太郎　五郎四郎　四郎五郎
助四郎　左近五郎　藤二郎　二郎三郎
小二郎　左衛門三郎　兵衛三郎　新五郎

下久世（紙継目）

三郎五郎　源二郎　六郎二郎　太郎三郎
五郎二郎　五郎三郎　四郎三郎　孫三郎
刑部二郎　左近五郎　衛門三郎　太郎四郎
太郎五郎　小五郎　けん三郎　右近二郎

以上五十六人

上下庄悉皆分（上下ミヽ）　六十七人

上庄悉皆分　百五人

上下　以上百七十二人

上下庄惣人數

西岡新溝ノコト

三〇四　杲覺書狀案

（端裏書）「就新溝事与利方被遣狀案　長禄四年」

當庄御寄進狀案文。爲御心得進之候、

此間連〻令申候西岡新溝之事、同者早〻被御披露、屬無爲候者、衆悅至候、

如先度申入候、寺領之事者、嚴重之御願祈所候處、如此子細出現候者、神長日勤行ホ闕怠基候哉、然者、慮難計候、且又御爲　公方様不可然候、旁無爲之様申御沙汰候者、可被目出度候、委細之趣、使者可申候、恐々謹言、

二月十八日　　呆覺

与利教禪殿

上郷ハ社寺禁裏公家領ナリ　下郷ノ新溝ヲ掘ルハ非違ナリ

与利教禪

三〇五　山城西岡上郷諸本所雜掌目安案

（端裏書）「新溝目安案文　長祿四年」

西岡上郷領主諸本所雜掌等謹言上

欲早被停止下郷新溝無理之訴訟（訴訟）、遂上郷無爲之耕作之間事　〉税

右、在々所々者、八幡・賀茂・平野・春日・東寺八幡宮ホ之神領、各嚴重之御祈禱料所也、或亦　内裏御領并闕白殿下等方々之領知也、（目六在別紙）、然爲下郷、於彼領内掘新溝、可下用水之由望申云々、〈爲〉事實者太不可然、是全無先例之上者、濫訴之至勿論也、爭有御許容乎、万一預御遵行構井溝者、天下之御祈禱用脚ホ定可減少歟、是併非御願退轉之基哉、如之禁中御政事御下行物ホ物ホ、忽以令闕乏、又諸家諸門跡ホ正祝定可失墜者也、然則就眞俗内外、無勿躰次第也、縱懇切雖歎申、爲新儀之上者、敢不可被成御下知、若然者、上郷所々弥欲遂無爲之耕作。欲倍致土貢運上、粗謹言上如件、

長祿四年二月　日

新溝ヲ許容セバ請本所闕乏スベシ

三〇六　新溝諸本所注文案（折紙）

（端見返書）「（異筆）「本溝」」

長祿四年二月新溝本所注文、地下ヨリ進之、」

内裏御領

神社領

ぎいり御領

松尾

ひら野

ろすか
やをさ

公家領

このゑ殿
さいおん寺殿
をまゑゑ殿
久我殿
三てう殿
御むろ
三ゑういん
めうゑういん
ゑやうれんいん
ゑいのとの
とうし

寺領

諸家領

ゑそろをこんふのせう
春ゐこ
せんゐこ
さんかを出羽守
ますい

十一箇郷用水ニ架橋セシム

三〇七　幕府奉行連署奉書案（折紙）

（端見返裏書）「長祿四　松尾口用水諸郷ェ御奉書案文」
（端裏書）「就　松尾御前淵之事、郷中并社家に奉書案長祿四」

城州西岡拾壹ヶ郷給主ホ申杜（桂）川用水溝事、去年就西芳寺御成、雖被埋之、
爲作毛依有其煩、於向後之出　御之當日、可相懸橋於彼溝云々、早任申請
之旨、毎度可致用意、至水路者、如元堀通之、可被全耕作之由候也、仍執達如
件、

長祿四
二月廿九日

當所給主御中

(飯尾)常恩判
(飯尾)之種判

三〇八　幕府奉行連署奉書案(折紙)

(端裏書)「長祿四　松尾口用水事奉書案」

桂川用水溝ヲモトノ如ク通水スベシ

城州西岡十一ヶ郷給主ホ申桂川用水溝事、去年就西芳寺　御成、雖被埋之、如元可被直(通)水之由候也、仍執達如件、

長祿四
二月廿九日

(飯尾)常恩判
(飯尾)之種判

松尾社神主殿

三〇九　幕府奉行連署奉書案(折紙)

用水文書正文ヲ出帶セシム

寒川光康

(端裏書)「就用水上久世公文方へ召文長祿四」

松尾社司等申桂河用水事、支狀到來早、不日可出帶文書正文之由候也、仍執達如件、

長祿四
十一月廿九日

(齋藤)種基有判
(飯尾)之種有判

(寒)産川新左衛門尉(光康)殿

三一〇　宮仕彦四郎鎮守八幡宮番請文

(端裏書)「宮仕彦四郎請文寛正貳八九」

番役ヲ勤仕スベシ

對(マヽ)請申

鎮守八滿(幡)宮御番ホ之事、於向後者、慇懃可致沙汰若無沙汰仕候者、被放召宮仕職、可有御罪科候、雖何事候、背寺命不可申候、仍請文之狀如件、

寛正二年八月九日

(自署)「彦四郎」(略押)

幕府ノ命ニ依リ松尾社境内ノ新溝ヲ埋ム

溝口ニ築堤シ戸板ヲ立ツ

将軍御成以下ノ通路ニ架橋ス

神田流失分ノ年貢ヲ辨償ス

革島勘解由左衞門ノ口入

篠村山ニ入會ハズ

三一一　上久世庄等五箇郷請文案

請文　松尾社領境内河原田之内新溝口事、以前申請候本溝ヨリ百廿丈上而、先度自五ヶ郷依押堀候、社領田畠ホ連〻就流失候、本溝之時、五ヶ郷之請文ヲ、自社家被捧之、依被歎申、爲　公方様、以兩御奉行飯尾左衞門大夫殿（之種）、齋藤四郎（種基）衞門殿有御成敗、於新溝者、被埋候ヲ、如此之處、自五ヶ郷、付革嶋勘解由左衞門方、社家ニ連〻侘事申子細者、肝要者、社領田畠ホ、無流失様定條〻事

一溝口築堤、五ヶ郷用水程立戸板、大水之時者、則可立彼戸候、堤ホ破損之時者、毎度可加修理事

一御成以下、　勅使内侍於御通路者、可懸橋申候、破壞之時者、毎度可加修理事

一神田流失分年貢米柒石宛、以社家器物、毎年拾ヶ月中無懈怠、爲五ヶ郷、可致其沙汰事

一口入人革嶋勘解由左衞門方請文、別紙在之、

一此外對社家、不可致神敵之儀事

右、背條〻之旨、雖爲一事、若無沙汰之事候者、今申請候溝口ヲ、則可被埋候、其時於　公私、不可及一言子細候、仍爲後證、五ヶ郷請文狀如件、

寛正三年三月十一日　　五ヶ郷判形

三一二　下久世庄公文久世弘成書狀（折紙）

（端裏見返）「下久世　寛正三壬午」

（端裏書）「篠村山之手事　下久世　寛正三」

蒙仰ホの村山人之事、北村之者、此近年者一人も罷立候ハす候由申候、自然又罷立事候者、有限山てホの事ハ、堅可申付候、此旨可預御披露候、恐〻謹言、

卯月十六日　　（久世）弘成（花押）

若狭（結賢）法橋
御坊

入會フ者アラバ山手ヲ申付クベシ

三一三　下久世庄公文久世弘成書状（折紙）

（端裏書）「寛正参　下久世注進」

蒙仰しの村山人之事、北村之者、此近年者一人も罷立候ハす候由申候、自然又罷立事候者、有限山てホの事ハ、堅可申付候、此旨可預御披露候、恐〻謹言、

卯月十六日　　（久世）弘成（花押）

公文所殿
御坊

三一四　上久世庄公文代寒川光康等連署書状（折紙）

（端見返書）「上久世　寛正参　壬午」

上久世庄公文等篠村山手ノ進濟ヲ約ス

公文代

土一揆ニ同心張本セズ

（端裏書）「篠村山々手事　寛正三　上久世請文」

先度蒙仰候篠村山手事、縦以前無沙汰者候共、被下御免、於向後者、有限山手、現蜜（厳密）可致其沙汰由申候、若背此旨者候者、注交名給、被處罪科可申候、此由預御披露候者、可畏入候、恐〻謹言、

卯月十七日　　公文代（寒川）光康（花押）

和田彦左衛門久行（花押）

利倉ノ道文（花押）

公文所御坊
上使法橋御房

三一五　上久世庄名主沙汰人百姓等起請文案

再拝〻〻　立申起請文事

右旨趣者、今度つち一きゝ同心張本仕候て、らんもうらうせき更〻いゝ

さす候、此旨若僞申候者、　奉始伊勢天照大神、八幡大菩薩、日本國中大小神祇、殊當庄藏王權現御罰、於各〻の身ゟ可蒙罷者也、仍起請文如件、

寛正三年十一月　日　　上久世庄名主沙汰人百姓ホ

三一六　藤原助光鎭守八幡宮宮仕職請文

（端裏書）「新宮仕左衞門次郎請文」

謹請申

東寺八幡宮〻仕職事

一對申上樣、不可致狼藉（狼藉）振舞事

一不可好鬪諍〻論事

一宮仕部屋不可預置一服一錢（南大門前）、茶屋具足ホ、又不可懸茶屋煩等事

一雖非番、隨召可專社頭奉公事

一當番之時、傍輩之外、不可用代官事

右条〻、背請文旨者、不日可被召放所職者也、仍請文之狀如件、

寛正四年八月十七日　　左衞門次郎　藤原助光（花押）

三一七　譲位段錢徵符案（竪切紙）

（端裏書）「とうし　寛正五　十二　十一」

御譲位要脚反錢事、壹段別百拾參文宛、來十三日以前、可有究濟、若有難澁者、可令入部譴責使者也、

寛正五年十二月八日　　從眞判

とうし　　正廣判

清式（雰數）P　　布施新右衞門（清基）

三一八　幕府奉行連署奉書案（折紙）

（端見返書）「山城國御譲位段錢免除狀案　寛正五　十二　廿六」

段別百十三文

東寺領山城國久世上下庄・上野・拜師・植松庄・東西九条（号女御田）、所々散在田地

東寺領山城諸庄ノ段錢ノ免除

ホ　御讓位段錢事、爲先々免除地之上者、所令停止催促之狀如件、

寛正五　十二月廿六日　　布施新右衞門　清基判

清式ア　秀數判

當寺雜掌

三一九　妙觀院分段錢一獻料送狀（折紙）

（端裏書）「自妙觀院段錢一獻料送狀寛正六　六十六」

段錢方一獻分ヲ送ル

送進反錢方一獻分事

花薗二反

南花薗一反

已上三反分　九十文

右妙觀院御分、所送進如件、

六月十五日　　乘珎法橋　　但馬（花押）

三二〇　大炊定金目安案

（端裏書）「就八幡講衆大炊定金法橋目安」

目安

八幡講頭役人數ノコト

大炊ハ頭役人數ニ非ズ

八幡方就頭役人數事定金謹言上

右子細者、彼頭者、大炊非役、其故者、古法橋爲啓神之由申置候、然定善定使之德分給、依之被加彼人數云々、然者、本預新方之雖賜德分、爭不加彼人數哉、是以、可有御推察候、依于志事候、其上大炊者、自新方一粒一錢不給而、大役之御頭可。仕候事、不便之次第也、又一人闕候者、御供闕退之由申上候条曲事也、御供田之年貢御供足ニ餘候也、更以不可有御供闕退之儀候、所詮、本方之御頭者、夫子仕候處、相副可勤申事、迷惑之至也、仍如斯言上

御供足ハ不足セズ

頭役免除ヲ請フ

申候、預御免候者、可畏入存者也、

應仁元
卯月　日

三二一　下久世庄年貢米算用狀

（端裏書）「下久世年貢散用狀　公文　广仁元年分」

注進　東寺八幡宮御領下久世庄御年貢米散用狀事

合五十九石五斗七合内

庄立用分

除庄立用

三斗　御神樂　一斗　御藏付

一石　如法經　一斗　牛玉紙

五斗　節析饗　六斗　治卩者（省）田

下司給

六斗　散（算）失　貳石　下司給

貳石　公文給

公文給

已上七石貳斗

殘御年貢米五十貳石三斗七合内

現納

現納四十三石八斗貳合五夕

未進八石四斗貳升四合五夕

別紙在之、

右、散用狀如件、

應仁元年十二月廿七日　弘成（久世）（花押）

三二二　下久世庄年貢米未進注進狀

（端裏書）「下庄未進广仁元」

注進　下久世庄御年貢米未進狀事

下久世分
大慈庵

一石八斗三升四合三夕四才　大慈庵

八升七合　弥五郎

六升四合五夕七才	兵庫方	
貳斗七升七合八夕	新方	
三升三合三夕四才	耕月庵	耕月庵
一升六合	兵衛五郎	
七合五夕	北左衛門五郎	
一升五合	冨春庵	富春庵
五斗八升一合	多福庵	多福庵
一斗二升	乘珎法橋	乘珍法橋
二升九合四夕七才	助四郎	
一升二合六夕八才	太郎二郎方	
三斗四升六合二夕四才	寶珠庵	寶珠庵
三升三合三夕四才	大藏庵	大藏庵
七斗三升八合九夕四才	彦五郎方（たか）	

一石七斗七升四合八夕四才	彈正方（おか）	岡彈正
一升一合	覺道	
二升五合	弥二郎	
二斗四升七合四夕五才	公文	公文
以上六石二斗五升五合五夕		
他所分		他所分
五斗三升一合	寺戸与二郎	寺戸
二斗四升	同梅林庵	梅林庵
三斗九升	同藏春庵	藏春庵
二斗一升一合	土川道淨	土川
二斗四升	土川弥五郎	
六升八合	土川五郎二郎	
一斗二升	寺と兩堂	兩堂

上久世庄

七升八合　　土川　弥四郎衞門
二斗一升　　土川方
八升一合　　上久世庄　太郎左衞門
以上二石一斗六升九合
惣已上八石四斗二升四合五夕
應仁元年十二月廿七日　　（久世）弘成（花押）

三二三　下久世庄公事錢算用狀

○コノ文書、本文及ビ端裏書共ニ、前第三二二號文書ト同筆ナリ、

（端裏書）「下久世公事錢散用狀广仁元年分」

注進　東寺八幡宮御領下久世庄御公事錢散用狀事
合拾伍貫四百五十文内
正月十四日ヨリ　十一月晦日マテ

目錢加定

已上十二度ニ伍貫五百四十一文目錢加テ、

御節供　　貳貫文　　御節供
放生會　　參貫文　　御放生會
已上五貫文
十二月分　四貫九百九文之内ヲ
弁四貫九百八十一文
過上分　　過上分七十二文
右、散用狀如件、
應仁元年十二月廿九日　　（久世）弘成（花押）

三二四　管領細川勝元年寄連署奉書（折紙）

東寺領山城洛中所領ヲ安堵セシム

東寺〻領山城國所〻并洛中屋地等事、任當知行旨、方〻被停止綺、弥可被
全寺務之由候也、仍執達如件、

應仁貳
七月廿四日　　三九二

（飯尾）豐清（花押）
（甲斐）久春（花押）

東寺雜掌

三二五　管領細川勝元年寄連署奉書案（切紙）

東寺〻領山城國所〻并散在田地洛中屋地ホ事、半濟兵粮米以下被免除之
處也、任當知行之旨、被停止方〻綺弥可被全寺務之由候也、仍執達如件、

應仁貳
七月廿四日　　〻
〻

東寺雜掌

三二六　幕府奉行奉書案（折紙）

東寺領山城國植松・上野兩庄・久世上下庄・拜師院町女御田ヽ其外及畠其外及ヽヽ散在田地ヽヽ所

東寺領山城所々ノ半濟兵粮米ヲ免除ス

山城所々ノ東寺領ノ半濟及ビ兵粮米ヲ免除ス

〻巷所屋地ホ半濟并兵粮米事、不混自余之寺社ホ之間、所被免除也、然者、方
〻綺堅可被停止之由、依仰免除之狀如件、

應仁貳
七月　日

東寺雜掌

三二七　鎭守八幡宮懸絹寸法等注進狀（折紙）

（端裏書）「文明五年二月十日　鎭守内陳御懸絹執行僧都注進」
（端裏書）「御懸絹之寸法已下執行注進」

鎭守御寶殿之内御懸絹事
三懸各長六尺四寸
但此之内二寸者棹分
縫代棹外六尺二寸
水色各五廣幅有之、

寶殿内陳懸絹

同棹長六尺七寸黒塗
同紐カ各三所付之、
白絹一脉
禮拜繭莚三枚
右、此分給置候之間、所注如件、
文明五年
二月十日　榮増（花押）

禮拜繭莚
文明七年分

三二八　浮足方年貢算用狀

（端裏書）
「浮足方算用狀　文明七年乙未　同八年二月十七日　勘定早」

注進　淀（浮）足御方御年貢御算用狀事

合　文明七年乙未分

一水田壹町壹段小坊用定

分米貳拾貳石六斗六升六合六夕六才内

寶藏番米

二石七斗貳升反別二斗四升宛　宝藏番米

殘十九石九斗四升六合六夕六才内

除

十五石六斗四升　給人方へ反別一石三斗四升宛

殘四□□（石三）斗六升六□（合）六才反別三斗八升宛

三二九　東寺雜掌重申狀案

○コノ文書、年次詳カナラザレドモ、コノ頃ノモノナルベシ、仍リテ便宜ココニ收ム、

東寺雜掌重言上

當寺八幡宮領山城國下久世庄守護不入間事

右當庄者、被停止公私之使節檢斷已下、每事爲地頭領主之計、執沙汰之趣、先度言上事舊訖、此子細連々歎申之處、彼在所者、諸本所依爲入組之儀、非寺家一圓知行之由、預御返事畢歟、此段被聞召遠歟、其故、當庄内田畠各々相傳

下久世庄守護不入ノコト

諸本所入組メドモ東寺ノ一圓知行

検断ハ東寺ノ自専ナリ

之輩雖多々、於八幡宮領者、依爲惣庄之地頭、検断已下更以非他綺、寺家令自専處也、依之、加徴米已下（従）各々下地令寺納（条、無其隠者哉、）是又不及異論、誰人令相對當社、可成領主之思乎、然則代々御下知云、東寺八幡宮領山城國久世上下庄地頭職云々、既帯（以）惣庄一圓領主之證文歎申上者、不可及御不審者哉、如此子細被披聞召、預善政御成敗全社要、弥欲致天下泰平、御家門長久之御祈禱、粗重言上如件、

(一)幕府奉行連署奉書案（折紙）東寺領山城諸庄ヲ守護不入トス

三三〇　幕府奉行連署奉書案（折紙）

東寺領山城國久世上下庄・上野・拜師・植松・東西九條号女御田・院町・柳原散在名田畠并境内所々検断以下事、爲守護不入之地、致其沙汰之處、今度遠乱云々、太無謂、早退押妨之族、寺家可被全所務之由、被仰出候也、仍執達如件、

文明九
九月廿六日

（清）貞秀在判

（松田）數秀在判

(二)幕府奉行連署奉書案（折紙）上久世庄年貢ヲ沙汰セシム

公文寒川光康

東寺領山城所々ノ年貢ヲ注進スベシ

守護代

東寺領山城國上久世庄年貢事、先度任奉書之旨、速寺家代官可致其沙汰之由、被仰出候也、仍執達如件、

文明九
十一月廿三日

（押紙）清和泉守
貞秀判

（押紙）松田主計允
數秀判

寒河新左衛門尉（光康）殿

三三一　清貞秀奉書案（折紙）

○コノ文書、年次詳カナラザルニ依リ、便宜ココニ收ム、

當寺領當國所々土貢事、早々可被註進之由、被仰出候、恐々謹言、

八月廿日

（清）貞秀（花押）

上総殿
駿河殿

三三二

山城守護代垣屋宗續奉書（折紙）

當寺領所々一圓被成遵行旱、早可被全寺務候者也、仍執達如件、
文明九
十二月十九日　（付箋）垣屋四郎次郎
東寺御雑掌　宗續（花押）

寺領ヲ一圓知行スベシ

三三三

田公豐職奉書（折紙）

東寺領山城國久世上下庄・上野・拜師・植松・東西九條号女御田・院町・柳原・散在名田畠并境内所々檢斷ホ事、一円被渡付之上者、彼代官可入部云々、早任被仰下之旨、年貢以下、如先々可致其沙汰由候也、仍執達如件、
文明九
十二月十九日　（付箋）田公豐職（花押）

久世上下庄以下ノ檢斷ヲ寺家ニ渡付ス

年貢等ヲ寺家ニ進濟スベシ

當所名主沙汰人ホ中

三三四

東寺領山城諸所年貢公事錢注進狀

（端裏書）「寺領土貢注進案就五分一儀、畠山殿ェ被進之、」

注進　東寺領山城國諸所事

一　乙訓郡上久世庄　鎮守八幡宮領
　合貳百貳拾八石ノ内
　除　十五石　庄立用
　　殘二百十三石　此外雜石少分有之、（數下同ジ）
　同公事錢　卅四貫百七十一文

一　同郡下久世庄　八幡宮御供新所
　合五十九石五斗内
　除　八石余　地下立用

上久世庄年貢米

公事錢

下久世庄

殘五十一石余寺納分　此外雜石少分有之、

同公事錢　十五貫四百五十文

一　葛野郡植松庄　長日尊勝陀羅尼。祈所

合百貳拾石内

除　二石余　庄立用

殘百十七石余寺納分

同郡上野庄

分五十余石　。本庄并他所。散在　。河成但不作地毎年内檢之知

同錢成五貫文余〳〵此外夏麥少分有之、

一　紀伊郡拜師庄散在

合九十二石

同郡女御田　伽藍造營析所

合百廿四石

植松庄

上野庄

毎年内檢ノ地

錢成

拜師庄

女御田

同。公事錢十九貫五百文饗餉

一　同郡　南田貳町　諸堂佛性田　合四十九石　三合升定号佛性升

一。東山柳原地子　拜堂護广并仁王經祈所

合五十貫文　兩季分

依之但此内荒作近年減少、

右、注進如件、

此外、雖有散在田畠、依爲名主加地子分作職不注進申、次境内水田并院町所〻屋地、依爲落(洛)中、略(不)能注進之、

雜掌　增祐

雜掌　聰快

文明十年七月　日

米六百九十六石五分一百卌九石

錢七十九貫九百文五分一十八貫文柳原十貫文分也、

南田十七石十合升定水田二十一石七斗一升内田分

已上四十三石七斗一升

南田

柳原地子

加地子分及ビ洛中ノ地ヲ除ク

五分一

三原跡風呂屋敷ノ地子ヲ進濟スベシ以前ノ風呂屋敷

三三五　利倉忠俊等連署地子請文（折紙）

（端貼返書）「風呂屋敷申請ゝ文文明十」

（端裏書）「三原屋敷地子請文文明十□」

（祐本）三原跡屋敷之内、風呂屋之敷地ニ申請候之處、可被仰付由候、畏入候、西三間奥四間之分ニてあるへく候、御地子ホ之事者、如先ゝ可致取沙汰候、以前之風呂屋敷候之間、爲替之地、可有御地子候之条、更以不可有相違候、依御披露早ゝ被仰下候、畏入候、恐ゝ謹言、

十一月八日

井上因幡入道道林（花押）
和田四郎左衛門尉貞吉（花押）
纒川平衛門尉久行（花押）
利倉民部丞忠俊（花押）

乘珎法橋御坊

松尾社境内ノ新溝ヲ塞ギ石堂口ヲ通水スベシ康暦二年ノ五箇郷請文

三三六　幕府奉行連署奉書案（折紙）

（端貼返書）「松尾ェ被成奉書案文」

（端裏書）「就井口之儀松尾ェ被成奉書文明十一己亥六七」

松尾社雜掌申當社境内用水通路事、去寛正二年被經御沙汰、任康暦二年久世・寺戸・河嶋・富田・下桂ホ五郷請文、於石塔口可通彼用水旨、御成敗之處、今度一乱中立還掘新溝之条、其咎不輕、旷詮、度ゝ證文分明之上者、如元石塔口可通溝若猶有遠乱之族者、可被處罪科之由、被仰出也、仍執達如件、

文明十一
六月七日

（飯尾）元連在判
（清）貞秀在判

當郷ゝ名主沙汰人中

石清水八幡宮領西庄ノ上流ニ新溝ヲ開クヲ禁ズ
張本ハ久世上下庄民

三三七　幕府奉行連署奉書案（折紙）

石清水八幡宮領山城國西庄用水事、自往古定置在所之處、今度猥爲當所名主沙汰人ホ張本、相構新井於神領上云々、事實者、太招其咎歟、既先年如此致濫吹之間、被奇破（弃）訖、所詮、速如先々、可致其沙汰、若令難澁者、可被處罪科之由、被仰出候也、仍執達如件、

文明十一
八月廿六日

（布施）英基在判
（飯尾）元連在判

久世上下庄名主沙汰人中

三三八　幕府奉行連署奉書案（折紙）

石清水八幡宮領山城國西庄用水事、自往古定置在所之處、今度猥相構新井於神領之上云々、事實者、言語道斷之次第也、先年既如此致濫吹候間、被弃破早、然重致興行条、罪科難遁者也、所詮、如先々可致其沙汰之由、被仰出候也、仍執達如件、

文明十一
八月廿六日

（布施）英基判
（飯尾）元連判

石原庄名主沙汰人中

三三九　下久世庄公文久世弘成書狀（折紙）

（端裏書）「文明十一　九　九」
（端裏書）「伊勢夫五人之内先三人可進之由地下ヨリ申折紙」

伊勢夫五人中三人ヲ進ムベシ

人夫之事、五人參候ハてハ不可叶由承候、迷惑候、所詮、三人之分申付可進候、殘二人之事ハ、可然樣預御披露、御免候ハヽ畏入候、何篇ゑて候共、此分堅御侘事可申入候由、皆々申候、恐々謹言、

公文
弘成（花押）

九月九日

公文所殿

名代

召夫ト名ノ夫

一圓ニ名ノ夫ヲ召サル

名ノ夫二人ヲ進メ殘リハ地下人ヲ召サルベシ

三四〇　下久世庄名代等申狀

（端裏書）「就伊勢御參宮荷持夫侘事自地下申狀文明十一九十一」

下久世名代謹言、

今度人夫之事、先度御書下ニ、召夫歟、名之夫歟、雖爲何可進由、蒙仰候間、先度之申事よも、名夫之事ハ、壹年中神役仕候間、地下之人夫可進由申候處よ、昨日彼ホ直ニ參候て就申ニ、一圓ニ名之夫可進由承候、歎入存候、既先年地下之人夫奈良へ罷下候て逗留仕候、其例候、所詮、寺命之御事よ候間、名之夫二人可進候、殘三人之事ハ、地下之人夫被召候て、預御扶持よ候者、可畏入候、仍粗言上如件、

九月日

三四一　下久世庄下司氏名注進狀（折紙）

（端裏書）「當下司藤次郎氏并名乘之注進文明十一」

名乘

弘次

氏ハ、如以前、可爲大江氏候、

弘次

大江氏

不參ノ八乙女ノ給米ヲ下行セラルルヲ謝ス

三四二　鎮守八幡宮神子等請文

（端裏書）「神子請文」

請申　東寺八幡宮放生會御神仕

右子細ハ、去今兩年八乙女一人不參申候、仍御下行物之内被留候、ホ〻ると申共、米ハ一人四斗あてゐるを、くゝふんニ御とめの間、ゝひ事申ニよりて、預御下行間、めてさく存候、已後ハかゐらす人數をとゝのへホ可申候、もし不參之儀者、そのまへを御ひらへあるゐく候、其時是非不可成候、

おさあい神子ヲ進ム

一おさあひ神子を近年まいらせ候事、御せりかんニあはせらるといえと
も、せんそさるによりてまいらせ候ゐり、としよると申共、地下人神事
をはとめさる物ゐり、

立烏帽子ノ着用

一ゑきさし神人立ゑゑし可申付候、上衆とふの事も、天下ふいの間、たし
ゐこ可申候、仍請文狀如件、

一老

惣壹

文明拾壹年十二月三日　　一老(花押)　惣壹(花押)

三四三　鎮守八幡宮御燈用途注進狀案(折紙)

(端裏書)「鎮守堂燈有足乗圓注進文明十一十二十九」

鎮守御燈用途事

文明十年分　貳貫文　　公文所沙汰

文明十一年分　參貫百九十二文　　同沙汰

以上五貫百九十二文内

公文所ノ沙汰

三聖人

九百文　當年四月ヨリ至十二月分　三聖人渡申、

内陣燈明料

殘四貫二百九十二文内

一貫八十文　明年分可出歟、内陣燈明料

定殘三貫二百十二文

十二月十九日　　(乗圓)祐深

三四四　上久世庄夏麥算用狀

(端裏書)「上久世庄夏麥算用狀文明十一年分云々、」

注進　上久世庄夏麥算用狀事

現納

合陸石參斗九升二合内

四石七升四合

參斗

現納

殘貳石壹升八合内

倉付

庄未進

一升六合　大寶庵　七升八合　平衛門

大寶庵

三升四合　富林　六升　四郎衛門

八升七合　正壽　二升八合　民卩

一斗二升五合　新六　四升七合　井上

四升二合　弥五郎　二斗八升一合　孫六

四升　孫五郎衛門　九升　大郎(太)左衛門

藏王堂

二合　道圓　三斗二升一合　藏王堂

二升　彦五郎

已上壹石二斗七升一合

定殘七斗四升七合

文明拾一年拾二月廿三日　公文寒川新左衛門尉光康(花押)

公文寒川光康

三四五　上久世庄公事錢算用狀

(端裏書)「久世庄公事錢算用狀文明十一年分」

注進　上久世庄御公事用途算用狀之事

合

除分

貳拾三貫六百拾八文　草用途

壹貫九貫八拾文　織事

參貫九百四拾文　八講用途

九百三拾文　茄子

已上參拾貫四百七拾一文内

現納

現納　貳拾六貫三拾七文　十二月廿六日(花)訖之分

殘　四貫四百三拾四文

庄未進

庄未進

十八文　形ド（刑）　廿三文　太郎左衛門
廿四文　助　九十二文　三郎衛門
廿二文　二郎太郎　十文　三郎二郎
十文　源三郎　二百廿三文　弥二郎
廿六文　小三郎　百八十五文　藏王堂
百十五文　彦衛門　三百廿五文　民部
百五十三文　式ド　七十文　慈眼庵
十四文　四郎左衛門　二百廿二文　納所御分
四十文　孫六　廿四文　右近
藏王堂
慈眼庵

已上壹貫六百四十五文
定殘貳貫七百八拾六文

文明拾一年十二月廿七日　公文寒川新左衛門尉光康（花押）

三四六　鎭守八幡宮阿彌陀三昧捧物支配狀

○コノ文書、紙繼目裏ニ、花押「是」アリ、

（端裏書）「去年阿弥陀三昧捧物支配狀文明十二三」

注進　鎭守毎月阿弥陀三昧御捧物支配狀之事

合

貳貫文　南田三段加地子執行坊ヨリ出之、　南田加地子
貳貫六百文　唐橋猪熊地子増長院御坊ヨリ出之、　唐橋猪熊地子
已上四貫六百文之内
除六百五十文　御支具加潤月分定　除分
殘三貫九百五十文十三ケ月分月別三百文
金勝院御房　十三ケ度　二百廿六文　支配
宝輪院〃　十三ケ度カ　二百十六文

宝生院、、　十ケ度カ三　百五十三文
金蓮院、、　十三ケ度カ四　二百六十文
宝厳院、、　五ケ度カ二　七十文
正覺院、、　七ケ度　七十文
宝荓院、、　十二ケ度カ三　百七十三文
宝泉院、、　十一ケ度カ三　百四十三文
宮内卿僧都、、　十三ケ度　百卌三文

（裏花押）

増長院、、　十三ケ度カ三　百六十三文
實相寺、、　十三ケ度カ二　百五十三文
民部卿僧都、、　十一ケ度カ二　百卌三文
宰相律師、、　十二ケ度カ二　百四十三文
太（大）輔律師、、　十三ケ度　百卌三文
三位律師、、　十一ケ度　百十三文

（紙継目）

治卩卿律師、、　十三ケ度カ一　百四十三文
中納言阿闍梨、、　十二ケ度カ三　百五十三文
侍從阿闍梨、、　十三ケ度カ三　百六十三文
中將阿闍梨、、　十ケ度　百三文
三位阿サリ、、　三ケ度　卌文
兵卩卿阿サリ、、　十三ケ度カ三　百六十三文
少將阿サリ、、　十二ケ度カ二　百四十三文
刑卩卿公、、　八ケ度　八十文
兵卩卿公、、　十三ケ度　百卌三文
少將公、、　三ケ度　卌文
二位公、、　十三ケ度カ二　百五十三文

預

鐘突　百卌三文
百卌三文

右、支配之狀如件、

文明十一年十二月　日

三四七　鎮守八幡宮大般若經闕分米支配度數注文案（折紙）

○コノ文書、次ノ第三四八號文書ノ裏ヲ反シテ書セリ、ナホ、以下第三五六號ニ至ル九通ノ文書ハ、紙捻ニテ一綴セラレタリ、

大舘闕分米支配之度數事

金勝院御坊　二ケ度
宝輪院、、　一ケ度
宝生院、、　一ケ度
金蓮院、、　一ケ度
宝嚴院、、　一ケ度
正覺院、、　一ケ度
宝井院、、　一ケ度
宝泉院、、　一ケ度
宮内卿僧都、、　一ケ度
增長院、、　二ケ度
實相寺、、　二ケ度
民卩卿僧都、、　二ケ度
宰相律師、、　二ケ度
太（大）輔律師、、　二ケ度
三位律師　二ケ度
治卩卿律師、、　二ケ度
中納言阿サリ、、　二ケ度
侍從阿サリ、、　二ケ度
中將阿サリ、、　二ケ度
三位阿サリ、、　二ケ度

兵卩卿阿サリ、、　二ケ度
少將阿サリ、、　二ケ度
刑卩卿公、、　二ケ度
兵卩卿公、、　二ケ度
少將公、、　二ケ度
二位公、、　二ケ度
以上四十四ケ日

文明十一
十二月日　納所方へ如此書之遣之案

納所方へノ案文

三四八　友成繼連書狀封紙

○コノ封紙ノ裏ヲ反シテ、前第三四號七文書ヲ書セリ、
（切封ウハ書）「　友成藏人　繼連」

寶輪院　三位殿　□度御返報

三四九　鎭守八幡宮本地供幷大般若經輪轉結番帳（折紙）

鎭守本地供并大般若經輪轉結番事

十月
廿五日　寶輪院御坊
廿六日　寶生院、、
廿七日　金蓮院、、
廿八日　寶嚴院、、
廿九日　正覺院、、
卅日　寶菩提院、、

十一月
廿五日　寶泉院、、

十二月

廿六日　宮内卿僧都、、
廿七日　増長院、、
廿八日　實相寺、、
廿九日　民部卿僧都、、
卅日　宰相律師

十二月

廿五日　太(大)輔律師、、
廿六日　三位律師、、
廿七日　治部卿律師、、
廿八日　中納言阿闍梨、、
廿九日　侍從阿闍梨、、

文明十二年十月　日

三五〇　鎮守八幡宮大般若經闕分米支配度數注文案(折紙)

大般若闕分米支配度數事

金勝院御坊　一ケ度
寶輪院〻〻　二ケ度
寶生院〻〻　二ケ度
金蓮院〻〻　二ケ度
寶嚴院〻〻　二ケ度
正覺院〻〻　二ケ度
寶荊院〻〻　二ケ度
寶泉院〻〻　二ケ度
宮内卿僧都〻〻　一ケ度
增長院〻〻　一ケ度
實相寺〻〻　一ケ度

民卩卿僧都〳〵　一ケ度
宰相律師〳〵　一ケ度
太輔律師〳〵　一ケ度
三位律師〳〵　一ケ度
治卩卿律師〳〵　一ケ度
中納言阿闍梨〳〵　一ケ度
侍從阿闍梨〳〵　一ケ度
中將阿闍梨〳〵　一ケ度
三位阿闍梨〳〵　一ケ度
兵部卿阿闍梨〳〵　一ケ度
少將阿闍梨〳〵　一ケ度
刑卩卿公〳〵　一ケ度
兵卩卿公〳〵　一ケ度

少將公〳〵　一ケ度
二位公〳〵　一ケ度
治卩卿公〳〵　一ケ度
以上三十四ケ度

文明十二年十二月　日

放生會闕分可有別支配也、
納所方へ書遣案文

放生會闕分ヲ別ニ支配ス

三五一　鎮守八幡宮本地供并大般若經輪轉結番帳（折紙）

鎮守本地供并大般若經輪轉結番事

四月

廿五日　中將阿闍梨御坊
廿六日　三位阿闍梨〳〵

四月

廿七日　兵部卿阿闍梨〻〻

廿八日　少將阿闍梨〻〻

廿九日　刑部卿公〻〻

卅　日　兵卩卿公〻〻

五月

廿五日　少將公〻〻

廿六日　二位公〻〻

廿七日　治卩卿公〻〻

廿八日　寶輪院〻〻（折紙ニハ今日雖故金勝院番、正月他界之間、次ヲ引上催申也、）

廿九日　寶生院〻〻（仍宮內卿僧都次萬次之間、非分ニ催申事衆儀也、）

六月

廿五日　金蓮院〻〻

廿六日　寶嚴院〻〻

廿七日　正覺院〻〻

廿八日　寶菩提院〻〻

廿九日　寶泉院〻〻

卅　日　宮內卿大僧都〻〻

文明十三年四月　日

三五二　鎮守八幡宮本地供并大般若經輪轉結番帳案（折紙）

鎮守本地供并大般若經輪轉結番事

十月

廿五日　刑卩卿僧都

廿六日　實相寺御坊

廿七日　民卩卿僧都〻

廿八日　宰相僧都〻

廿九日　太(大)輔律師〻

晦　日　三位律師〻

十一月

廿五日　治部卿律師〻

廿六日　中納言律師〻

廿七日　侍從阿闍梨〻

廿八日　中將阿闍梨〻

廿九日　三位阿闍梨〻

文明十三年十月　日

鎮守本地供并大般若經輪轉結番事

五月

廿五日　兵卩卿阿闍梨御坊

廿六日　少將阿闍梨〻〻

廿七日　大納言阿闍梨〻〻

廿八日　刑卩卿公〻〻

廿九日　兵卩卿公〻〻

六月

廿五日　少將公〻〻

廿六日　二位公〻〻

廿七日　治卩卿公〻〻

廿八日　宮內卿公〻〻

廿九日　寶輪院〻〻

卅　日　寶生院〻〻

文明十三(四)年五月　日

私云、
廻時者、折紙各一紙宛也、依(爲)案文、裏表ニ書之也、

三五三　鎮守八幡宮大般若經闕分米支配度數注文案

（端見返書）「大般若輪轉折紙」

大般若闕分米支配度數事

寶輪院御坊　一ケ度
寶生院〻〻　一ケ、
刑卩卿僧都　一ケ、
實相寺〻〻　一ケ、
民卩卿僧都〻　一ケ、
宰相僧都〻　一ケ、
太(大)輔律師〻　一ケ、
三位律師〻　一ケ、
治卩卿律師〻　一ケ、
中納言律師〻　一ケ、
侍從阿闍梨〻　一ケ、
中將阿闍梨〻　一ケ、
三位阿闍梨〻　一ケ、
兵卩卿阿闍梨〻　一ケ、
少將阿闍梨〻　一ケ、
大納言阿闍梨〻　一ケ、
刑卩卿公〻　一ケ、
兵卩卿公〻　一ケ、
少將公〻〻　一ケ、
二位公〻〻　一ケ、

治卩卿公〻〻　一ケ丶
宮内卿公〻〻　一ケ丶
以上廿二ケ度

文明十三年十二月　日

放生會闕分、當會參懃之衆卅六人ニ、別ニ可有支配之也、

放生會闕分ヲ別ニ支配ス

私云、放生會闕分ハ四句也、供僧輪轉分ハ二句也、

放生會已後、新補供僧在之故也、

納所方へ如此書遣案文也、

三五四　鎮守八幡宮本地供并大般若經輪轉結番注文（折紙）

三月

鎮守本地供并大般若經輪轉結地事

三月

十三日　妙觀院御坊

十四日　光明院〻〻
十五日　宰相僧都（擦消）「〻〻」
十六日　太（大）輔律師〻〻
十七日　三位律師〻〻
十八日　帥律師〻〻

同月

廿五日　中納言律師〻〻
廿六日　侍從阿闍梨〻〻
廿七日　中將阿闍梨〻〻
廿八日　三位阿闍梨〻〻
廿九日　兵部卿阿闍梨〻〻
晦日　少將阿闍梨〻〻

五月

一日　大納言阿闍梨〻〻
二日　刑部卿公〻〻
三日　兵卩卿公〻〻
四日　少將公〻〻
五日　治卩卿公〻〻
六日　宮内卿公〻〻（大藏卿公ヽヽ）
右、結番如件、

文明十五年三月　日

鎮守本地供并大般若經輪轉結番事

十月

一日　金蓮院御坊

二日　寶嚴院〻〻
三日　宝菩提院〻〻
四日　寶泉院〻〻
五日　金勝院〻〻
六日　增長院〻〻
右、結番如件、

文明十四年九月　日

三五五　鎮守八幡宮本地供并大般若經輪轉結番注文（折紙）

鎮守本地供并大般若經輪轉結番事

六月

十九日　寶輪院御坊
廿日　寶生院〻〻

廿一日　金蓮院〻〻
廿二日　寶嚴院〻〻
廿三日　寶菩提院〻〻
廿四日　宝泉院〻〻
右、結番如件、

文明十五年六月　日

私云、右之六人、來秋輪轉之衆ニ加之、闕分米可有支配云〻、
去年秋支配之衆之外ナル故也、

三五六　東寺講堂仁王般若經讀經着到狀

東寺講堂臨時仁王般若御讀經着到
文明十一年　久世方立願果
開白三月十二日

久世方立願
果讀經
開白

中日

權僧正免　權僧正導師　杲覺　堯杲　宏清
原永　教濟　覺永　融壽　俊忠
公遍　慶清　嚴信　重禪　宗承
賴俊　宗演　祐源　寶紹　杲明
榮舜　俊雄　俊耀免　融章　融專
已上二十三人各五部
都合一百十五部

中日十三日

權僧正免　權僧正　杲覺導師　堯杲　宏清
原永　教濟　覺永　融壽　俊忠
公遍　慶清　嚴信　重禪　宗承
賴俊　宗演　祐源　寶紹　杲明
榮舜　俊雄　俊耀免　融章　融專

結願

已上三十三人各五部
都合一百十五部

結願十四日

權僧正（免）　權僧正　杲覺　堯杲（導師）　宏清
原永　教濟　覺永　融壽　俊忠
公遍　慶清　嚴信　重禪　宗承
宗演　祐源　寶紹　榮舜　杲明
頼俊　俊雄　俊耀（免）　融章　融專

已上二十三人各五部
都合一百十五部

三五七　東寺講堂仁王經讀經廻請

○コノ文書、後闕ニテ年次詳カナラザレドモ、コノ頃ノモノト思ハルルニ依リ、便宜ココニ收ム、

久世方願果

開白導師
中日導師
結願導師

（端裏書）「久世方願果」

廻

東寺講堂仁王御讀經事

金勝院御坊　寶輪院、、（開白導師）
寶生院、、「奉」（中日導師）（異筆ヲ同）　金蓮院、、「奉」（結願導師）
寶嚴院、、　正覺院、、
寶菩提院、　寶泉院、、
宮內卿僧都、「奉」　增長院、「奉」
実相寺　民部卿僧都、、
宰相律師、、「奉」　太（大）輔律師、、
三位律師、、　治卩卿律師、「奉」
中納言阿闍梨、、　侍從阿闍梨、
中將阿闍梨、「奉」　三位阿闍梨、

兵部卿阿闍梨、　少將阿闍梨、

三五八　松尾社御前淵用水文書案

（端裏書）「就松尾御前淵井口郷中目安并御奉書案文二通　文明十二庚子」

東寺領山城國久世庄并郷〻雜掌ホ謹言上

右松尾社前用水之事、西芳寺御成時者、毎度爲郷〻相懸橋、還御以後、用水如元無其煩之處、去年御成時、爲社家作路塞水路条太無謂、任度〻御奉書之旨、爲預御成敗、粗言上如件、

文明十二
二月　日

（紙繼目）

山城國西岡十一郷給主ホ申桂川用水溝事、去年爲松尾社家、雖被埋之、爲作毛就有其煩歎申之間、任度〻御成敗奉書之旨、至水路者、如元堀通之、郷〻可全耕作之由、被仰出候也、仍執達如件、

文明十二
三月十日

（清）貞秀判
數（松田）粉秀判

西岡十一郷給主御中

（紙繼目）

山城國西岡十一郷給主等申桂川用水溝事、去年爲社家雖被埋之、爲作毛煩之間、就歎申、毎度被成奉書、無相違上者、於彼溝者、如元堀通之、郷〻可全耕作之由、被仰出候也、仍執達如件、

文明十二
三月十日

貞秀判
數
粉秀判

松尾社神主殿

三五九　鎮守八幡宮理趣三昧論義廻請

（端裏書）「八幡宮理趣三昧　同論義廻請　文明十二庚子　廿八」

當國諸庄薗本腹立願果廻請

東寺百合文書　を三五九

（一）久世等諸庄雜掌目安案　松尾社ノ御前用水ヲ塞グヲ訴フ

（二）幕府奉行連署奉書案（折紙）　舊ノ如ク掘リ通ズベシ

（三）幕府奉行連署奉書案（折紙）

参會
　　已尅

廻

東寺八幡宮理趣三昧事

金勝院權僧正（供養法）「奉」　寶輪院權僧正（供養法）「奉」
寶生院法印「奉」　金蓮院法印「奉」
寶嚴院大僧都「奉」　正覺院大僧都「奉」
寶菩提院大僧都「奉」　寶泉院僧都（調聲）「奉」
宮內卿僧都「奉」　增長院僧都「奉」
實相寺僧都「奉」　民部卿僧都「奉」
宰相律師「奉」　太（大）輔律師「奉」
三位律師「奉」　治部卿律師「奉」
中納言阿闍梨（讃）「奉」　侍從阿闍梨「奉」

中將阿闍梨　三位阿闍梨「奉」
兵部卿阿闍梨「奉」　少將阿闍梨「奉」
刑部卿公「奉」　兵部卿公「奉」
少將公　二位公「奉」

（山城諸庄園再興ノ立願）

右、爲當國諸庄薗本腹立願、來廿八日可被果遂之、各可令參懃給之狀如件、

文明十二年三月　日

三六〇　鎭守八幡宮論義廻請

（端裏書）「立願果論義廻請　文明十二三廿八」

参會
　　申尅

廻

東寺八幡宮論義事

講師　寶輪院權僧正「奉」（異筆下同ジ）　寶生院法印「奉」
讀師　正覺院大僧都「奉」　寶菩提院大僧都「奉」
問者　寶泉院僧都「奉」　宮內卿僧都「奉」
散花　大納言僧都　民部卿僧都「奉」
宰相律師「奉」　太（大）輔律師「奉」
三位律師「奉」　治部卿律師「奉」
中納言阿闍梨「奉」　侍從阿闍梨「奉」
中將阿闍梨　三位阿闍梨「奉」
兵部卿阿闍梨「奉」　少將阿闍梨「奉」
刑部卿公「奉」　兵部卿公「奉」
少將公　二位公「奉」

右、來廿八日、於鎭守八幡宮、爲被果當國寺領興複（復）立願、可有執行、各可令參勤給之狀如件、

山城守護衆ノ半濟ニ依リ立願ス證義

文明十二年三月日

天下靜謐之砌、寺領ホ、爲守護衆半濟之間、條〻立願也、

一今度證義事、一萬寶輪院所一方學頭一人可有出仕也、然而依失念、廻請〻一次一方學頭寶生院加之申旱、仍出仕無之、於巨細者、久世方引付可有之也、

問題

一問題事

講讃經王者、顯（密）二教中何哉事

自宗意頓大行者、必先成就、世間悉地歟事

供養法

三六一　鎭守八幡宮理趣三昧着到狀

（端裏書）「八幡宮立願果理趣三昧着到　文明十二庚子　三　廿八　同論義着到」

東寺八幡宮

○立願果理趣三昧着到　文明十二年庚子

三月廿八日

權僧正（免宝）　權僧正（供養法）　杲覺　堯杲　宏淸

調聲　原永　教濟　覺永　調聲　融壽　俊忠
讃　公遍　慶清　嚴信　重禪　宗承
賴俊　宗演　讃　祐源　杲明　榮舜
俊雄　俊耀　融章　融守　預　重圓

三六二　鎮守八幡宮立願果捧物支配狀

○コノ文書ノ紙繼目裏花押、第三四六號文書ト同ジ、

（端裏書）「三月廿八日立願果捧物支配狀　文明十二　六　十五」

願果布施支配　注進　八幡宮御願果（果）御布施支配狀事

去年久世庄公事錢殘除分　合壹貫五百文内　去年久世庄御公事錢殘

除五十文　御支具　六十文　御供養法

廿文　調聲　廿文　讃

廿文　御奉行分　四十文　公文分

廿文　當堂預分　四十文　兩納所分

以上二百七十文引之、

殘一貫百八十五文目引之、

廿四人内　上十一人　六十文　妙觀院御坊
下十三人　四十文

論義布施支配　同御論儀（義）御布施支配狀事

合一貫五百文内　去年久世庄御公事錢殘

除分　除五十文　御支具　六十文　御證義分

六十文　講師　四十文　讀師

四十文　問者　廿文　唄

……廿文……散花（裏花押）廿文……御奉行……（紙繼目）

四十文　公文分　廿文　兩堂分

四十文　兩納所分

以上四百十文引之、

殘一貫四十五文目引之、

十九人内　上十四人　六十文三位阿闍梨御坊
　　下五人　四十文

右、支配之狀如件、

文明十二年六月十五日　　公文所法橋

三六三　久世庄評定得分支配狀

○コノ文書、紙繼目裏ゴトニ、花押「　」アリ、

（端裏書）「去年久世庄評定德分支配狀（文明十）□□三（正）□（十）七」

注進　久世庄御評定德分支配狀事

合五貫文内　三貫文　□□（公事）錢之殘分

一貫四百八十文内分文明十一年三月十七日拜師□（庄カ）御

拜師庄借用分返辨殘

除分

十分一

五百十七文　借用分御返弁

以上五貫文内　御年貢之内

除　百文　公文分　百五十文　預分

五十文　納所分

以上三百文引□（之）、（裏花押）○「三百文」ノ裏ニ記セリ、……（紙繼目）

殘四貫七百文

十分一　四百七十文

殘四貫二百廿七文

度數　三百九十五ケト　一ケ度別十文宛（但十ケ度三文加之、）

金勝院御坊　廿一ケ度　二百廿二文

宝輪院御坊　廿一ケ度　二百廿二文

宝生院〻〻　廿一ケト　二百廿二文

金蓮院、、	廿一ケト	二百廿二文
宝厳院、、	一ケト	十文
正覺院、、	六ケト	六十二文
宝荓院、、	十八ケト	百八十八文
宝泉院、、	十九ケト	二百一文
宮内卿僧都、、	十八ケト	百八十八文
増長院、、	十七ケト	百七十八文
實相寺、、	十八ケト	百八十八文
民卩卿僧都、、	十八ケト	百八十八文
宰相僧都、、	廿一ケト	二百廿二文
同御奉行分	十三ケト	百卅七文
大輔律師、、……○「十八ケト」ノ裏ニ記セリ、	十八ケト（裏花押）……	百八十八文……（紙繼目）
三位律師、、	十ケト	百六文

同御奉行分	八ケト	八十二文
治卩卿律師、、	十九ケト	二百一文
中納言律師、、	十八ケト	百八十八文
侍從阿闍梨、、	十七ケト	百七十八文
中將阿闍梨、、	十五ケト	百五十七文
三位阿闍梨、、	六ケト	六十一文
兵部卿阿闍梨、、	十三ケト	百卅七文
少將阿闍梨、、	十三ケト	百卅七文
刑部卿阿闍梨、、	十三ケト	百卅七文
兵部卿阿闍梨、、	二ケト	廿文
少將阿闍梨、、	六ケト	六十一文
二　位　公、、	二ケト	廿文
治部卿公、、	一ケト	十文

右、支配之狀如件、

文明十三年正月十七日　　公文所法橋

文明十二年公文分未進

三六四　上久世庄公文寒川光康未進請文（折紙）

（端裏書）「――――公文方未進請文」

文明拾二年分自分未進事

八石一斗三合五夕

二貫六百八十八文　御公事錢未進

秋迄進濟ノ延引ヲ請フ

來秋初早〻可致其沙汰候、其（迄）御延引候樣ニ、可預御披露候、恐〻謹言、

（文明十三年カ）二月廿三日　　上久世公文光康（寒川）（花押）

上使御坊

納所御坊

光康百姓未進分ヲ辨濟スベシ

明年四月中ニ沙汰スベシ

三六五　上久世庄公文寒川光康未進請文（折紙）

去年彦衞門未進三石六斗七升九合、來秋自私可致其沙汰候、仍請文旨如件、

文明十三二月廿三日　　上久世公文光康（寒川）（花押）

納所御坊

三六六　四郎左衞門未進請文

（端裏書）「四郎左衞門」

請負申　上久世庄未進之事

合七斗四升者、

右の御年貢ハ、明年四月中ニかいふん沙汰可申候、相殘分ハ、八月中ニ沙汰可申候、若無沙汰申候ハヽ、請人として堅御さいそくニあつゝり可申候、其時一言申ましくて候、仍後日請文之狀如件、

文明十四年十二月十八日　四郎左衞門（花押）

明年八月中ニ進納スベシ

公文ヘノ納分ヨリ引召サルベシ

三六七　小三郎未進請文

（端裏書）「上くせ　小三郎」

うけおい申御年貢未進分事

合五石八斗八升七合者、

右御未進者、明年八月中ニ、さく米おもんて納申候へく候、若ふさゝ仕候ハヽ、公文とのゝおりかミおまいらせられ候上者、公文とのえ納申されて候御年貢にて、さいせんニひきめされ候へく候、仍後日うけふミ狀如件、

文明十四年十二月廿三日　上くせ　小三郎（花押）

三六八　上久世庄公文寒川光康未進請文（折紙）

（端見返書）「上くせ公文方小三郎分」

小三郎無沙汰ノ時ハ公文トシテ進濟スベシ

小三郎未進五石八斗八升七合之事、來秋初ニ御寺納可申由、彼仁申候、若無沙汰仕候者、此方より可致其沙汰候、恐ゝ謹言、

文明十四とらのとし十二月廿三日　公文　光康（花押）

納所御坊

未進年貢ハ秋ニ納ムベシ

三六九　利倉貞光未進請文

御年貢米未進分之事、來秋ニ成候之者、一收納立申候て、涯分可致奔走候、仍請文之旨如件、

文明拾五年五月四日　利倉孫六　貞光（花押）

未進年貢ノ進濟ヲ約ス

三七〇　彌五郎等連署未進請文（折紙）

○コノ文書、年次詳カナラザルニ依リ、便宜ココニ收ム、

御年貢未進の御へらい、廿九日ニ可納申候、らゐらすたいらいかいせ

い可申候、此分御ひろうニあつかり候て、御使よきやうニ申候て、御とゝ
め候ハゝ、可畏入申候、□□く以參可申候へ共、いまの時分よて候間、おそ
れゐら狀よて申入候、恐〻謹言、

九月廿二日　　弥五郎
御納所きやうしん　　彦太郎
御坊へ進之候、　　八郎二郎(花押)
　　弥　三(花押)
　　三郎ゑもん(花押)
　　弥五郎(花押)
　　木　村(花押)
　　八郎二郎(花押)

三七一　東寺西院理趣三味論義廻請

（端裏書）「大乱静謐之刻　文明十九　十一　廿二　當國諸庄商本腹立願　西院立願果理趣三味引声表白　廻請　文明十五　卯　十二　同日論義廻請」

參會
已尅

廻

東寺西院理趣三味事

寶輪院權僧正「奉」（異筆ジ下同）　寶生院法印「奉」（供養法）
金蓮院法印「奉」　寶嚴院法印「奉」
寶菩提院法印「奉」　寶泉院大僧都「奉」
金勝院大僧都「奉」（附箋）「所作故障」調聲　○「調聲」ノ上ニアリ、　增長院大僧都「奉」
妙觀院大僧都「奉」　光明院僧都「奉」
宰相僧都　三位律師「奉」
帥律師「奉」　中納言律師「奉」

催促ノ使フ
停止ヲ請フ

應仁ノ亂靜
謐ス

理趣三昧
供養法

調聲

讃

東寺領山城諸庄本復ノ立願

侍從阿闍梨讃「奉」　中將阿闍梨「奉」
兵部卿阿闍梨「奉」　少將阿闍梨「奉」
大納言阿闍梨「奉」　少　將　公「奉」
治　部　卿　公「奉」　宮　內　卿　公「奉」
太(大)藏　卿　公「奉」

右、來十二日、於西院、爲被果當國寺領興(復)立願、可有執行、各可令參懃給之狀如件、

文明十五年五月　日

(紙繼目)

(端裏書)「西院立願果論義廻請文明十五卯十二　學衆奉行宝泉院」

參會
申尅

廻

論義
請師
讀師
問者

東寺西院論義事

寶生院法印「奉」(善覺ノ下同)　珎(法)菩提院法印「講師」
卿大僧都　金勝院大僧都「讀師」
妙觀院大僧都「奉」　光明院僧都「問者」
宰相僧都「奉」　三位律師「散華」
帥律師「奉」　中納言律師「奉」
侍從阿闍梨「奉」　中將阿闍梨「奉」
兵部卿阿闍梨「奉」　少將阿闍梨「奉」
大納言阿闍梨「奉」　少　將　公「奉」
治部卿公「奉」　宮內卿公「奉」
大藏卿公「奉」

右、來十二日、於西院、爲被果當國寺領興(復)立願、可有執行、各可令參懃給

之狀如件、

文明十五年五月　日

小倉家成へ賣ル
一色石代
加地子

三七二　宗祥田地賣券案

○コノ文書、第三七六號文書ト同筆ナリ、

（端裏書）「案文」

永代賣渡申田地之事

合壹段者、在所里坪付ホ者、本券見了、

右件田者、依有要用、本券壹通相副、直錢六貫文ニ、小倉家成方へ賣渡申所實正也、但、此田一色石代、本所賀茂田年貢米四斗、此外草代百文沙汰之、殘加地子六斗宛可被召候、若於此下地遠乱煩出來候ハ、請人相共ニ其明可申候、尙〻相遠儀候者、可被處盗人罪科候、仍爲後日賣券狀如件、

文明十五年十二月十日　賣主　宗祥在判

請人

願果理趣三味
除分

三七三　東寺西院理趣三昧論義布施支配狀

○コノ文書、紙繼目裏ニ、花押「㊈」アリ、

（端裏書）「西院立願果理趣三昧并論義布物支配狀（端裏）文明十五十二十九」

注進　西院御願果御布施支配狀事

合壹貫七百文　五ヶ弥ヨリ合

除　百文　御身供　百文　御支具

殘一貫五百文

重除　六十文　御供養法　廿文　調聲

廿文　讃御奉行分　四十文　公文分

八十文　北面四人　四十文　兩所納所

以上二百八十六文引之、

請人糸井弥九郎在判

同論義

除分

殘一貫〇百七十九文目引之、

廿一人内　上七人六十文　下十八人四十文　金蓮院御坊（勝）

聖四人　四十文

同御論義御布施支配狀事

合一貫六百文

除　百文　御支具

殘一貫五百文

重除　六十文　御證義（寶泉院覺水）　廿文　唄

六十文　講師　四十文　讀師

四十文　問者　廿文　散花

廿文　御奉行分　四十文　公文分

八十文　北面四人　四十文　兩納所

以上四百卅二文

（裏花押）

（紙繼目）

殘一貫廿三文目引之、

十七人内　上十三人六十文　下四人四十文　宝少將阿闍梨御坊

聖二人　四十文

右、支配狀如件、

文明十五年十二月十五日　公文所法橋

三七四　鎭守八幡宮大般若經輪轉等支配狀

（端裏書）「鎭守大般若輪并放生會闕分支配狀　文明十五十二廿七」

注進　鎭守大般若輪傳（轉）支配狀事

合拾貳石六斗六升内　三口闕分一口別四石二斗二升　減分

三斗八升

殘十二石二斗八升

卅九ケ月分　一ケ日分　三斗一升四合七夕宛

放生會闕分

上十二人　二ケ日分　六斗二升九合四夕大輔律師御坊
下十五人　一ケ日分　三斗一升四合七夕
以上　（寶泉院覺永）（裏花押）

一　放生會闕分支配狀事

合三石六斗内　四口分
一斗八合　減分
殘三石四斗九升二合
廿六口御分　口別一斗三升四合

右、支配之狀如件、

文明十五年十二月　公文所法橋

三七五　鎮守八幡宮大般若輪分供料内支配狀

（端裏書）「大般若輪分供料内支配狀文明十六二十六」

大般若經輪轉支配狀

注進　久世庄輪傳（轉）分支配狀事

合一斗九升六合八夕　三口分
卅九ケ日分　一ケ日別　五合宛
上十二人　二ケ日　一升　大輔律師御坊マテ
下十五人　一ケ日　五合

右、支配之狀如件、　（寶泉院覺永）（裏花押）

文明十六年二月十五日　公文所法橋

三七六　小倉家成名主職請文

○コノ文書、第三七二號文書ト同筆ナリ、

（端裏書）「久世里六坪鷲田加徵米請文小倉源三郎」

東寺御領下久世庄鷲田之内、自宗正（祥）買德之下地壹段之事、及御沙汰、雖可有御勘落候、彼名主支證号賀茂田事、致弃破之上者、可預御免候、次加徵壹

下久世庄久世里六坪ノ田地宗祥ヨリ買得ノ下地

加徴米加地子ハ寺家ノ本役

斗貳升、同加地子壹斗貳升合貳斗四升分者、寺家爲御本役、自以前無相違寺納申候、於已後者、弥嚴密可致其沙汰候、万一無沙汰之事出來候者、不日彼名主分可被召放候、仍爲後日請文之狀如件、

請人岡經久

文明十六年甲辰九月八日

小倉家成（花押）

岡彦太郎經久（花押）

三七七　宮内卿公某書狀（折紙）

○コノ文書、年次詳カナラザレドモ、コノ年ノモノト推測サルルニ依リ、便宜ココニ收ム、

尚〻、一兩日中ゟ被仰付候て、先度此木出候、夜まて取可給候、路次ゟて候間、如此申上候、道圓を御そゑ候て可給候、いた其方へ上申候ハゝ、被仰付候、かけゟ可被置候、日ゐさり申候へハ、皆〻くさけ申候間、わさと申候へく候、取亂候間、そと申候へく候、

先度之後者不申通候條、態一筆令進候、何ホ之御事御座（候脱カ）哉、御床敷存候、

小板
借馬
厚板

一寂前被仰付候小板、以上四千六百まい出來候間、今日路次迄申付出候、大事之物ゟて御座候条、則借馬義被仰付、早〻取ゟ可被下候、

一あつ板之儀ハ、當月中ニ調可進由、河内申候、此方ゟて之御用物ニ御座候ハゝ、可被仰下候、將亦、相殘ぎゝゑ之面末（未）出來候ハぬ間、迷惑仕候、然共ゝいふん申付可進候、罷上申入度存候へ共、此方未茶ニ皆〻取亂候間、無其儀候、恐〻謹言、

（文明十七年カ）壬三月廿二日　宮内卿公

東寺寶輪院御房中　杲□（花押）

當番ハ本人ノ勤仕

（端裏書）「宮仕請文　文明十八七十二ヒ」

三七八　鎮守八幡宮宮仕等連署請文

請申　當社御番役之事

一當番之間、代官をゝす、本人晝夜ゝめ申へき事

神供以外ノ火ノ用心
順禮等ノ男女ヲ宿泊セシムベカラズ

一御神供之外、細〻火を焼事あるゐらす候、火之用心堅可仕之事
一順禮以下の男女、夜るとめたくゐらす、
右此ホ條〻、万一遠背申ハ、速宮仕職を被召上、堅御罪科あるへき者也、仍
爲後證請文狀如件、

文明十七年十二月三日

太郎次郎(略押)
与四郎(略押)
太郎次郎(略押)
新兵衛(花押)
集(隼カ)人(花押)
彦左衛門(略押)

三七九　上久世庄公事錢算用狀

(端裏書)「上久世庄公事錢公文算用狀文明十七年分」

注進　上久世御公事用途算用狀之事

合

貳拾三貫六百拾八文　草用途
壹貫九百八拾文　職事
三貫九百四拾文　八構(講)用途
九百卅文　茄子
已上參拾貫四百七十一文内
現納　貳拾貫九百八十四文
殘　七貫四百八拾四文内

庄未進

二百六十七文　平衛門　八十七文　弥五郎
百六十二文　慈眼庵　三百八十五文　三郎衛門
二百六十二文　四郎左衛門　百十一文　領田同

現納

庄未進

慈眼庵

華藏庵

七十二文　弥九郎　卅六文　式部
三百十八文　孫左衞門　五十五文　華藏庵
廿九文　彦太郎　三百六十八文　太郎左衞門
九十文　兵ア　廿八文　又三郎
十文　孫六跡　五十二文　四郎衞門
十文　井上後家　四十五文　井上跡
十八文　兵衞太郎　三百卅文　二郎太郎
六十四文　鶴滿　百十九文　新六
十五文　下久世又三郎　七十九文　三郎
卅六文　小三郎　五十一文　彦二郎衞門
卅六文　大夫　卅六文　宮左衞門五郎
五十七文　治ア　五十三文　弥二郎
十八文　大夫五郎　四十六文　三郎二郎
二百九十五文　衞門太郎　百十一文　八郎二郎
二百六十五文　民ア　百七文　鐵事右近跡
七百三文　藏王堂　卅六文　大慈庵

藏王堂
大慈庵

公文寒川家光

死穢ニ依リ八幡宮假殿ヲ造立ス寺内ハ觸穢セズ八幡宮ハ清祓スベシ

廿文　又四郎

定殘貳貫五百四十六文　已上四貫九百卅八文

文明十八年二月廿三日　公文寒河太郎三郎家光(花押)

三八〇　吉田社神主某書狀案(折紙)

(端裏書)「就死人穢之事、從吉田神主方返答折紙　文明十八九十八」

當寺八幡宮假殿造立事、尤可然存候、今度死人穢事、於寺中者、以大内之准據、可爲公界之通路之儀候間、不可及觸穢候、就中、云八幡宮、云結戒地、旁以早〻被行清祓候条、殊可然候乎、

三八一　勘解由小路在通鎭守八幡宮遷座日時勘文案

(端裏書)「御遷座日取　文明十八九廿六」

鎭守　八幡宮遷座日

十月七日巳卯（己）　時戌（戌亥）

十日壬午　時亥

九月廿六日

（勘解由小路）在通

三八二　鎮守八幡宮假殿理趣三昧着到狀

（端裏書）「東寺八幡宮假殿理趣三昧着到　文明十八丙午　一七箇日結番分」

東寺八幡宮假殿理趣三昧着到

文明十八年丙午十月八日

寶緣　嚴信　榮舜　俊我番　權僧正　杲覺　俊忠　宗承　円忠

祐源

九日、理趣三昧尊勝陁羅尼

教濟　重禪　俊雄　瑤遍番　杲覺　寶緣　俊忠　嚴信　承宗　祐源

十日、理趣三昧尊勝陁羅尼

覺永　宗承　眞海　秀濟番　杲覺　寶緣　嚴信　祐源

十一日、理趣三昧尊勝陁羅尼

融壽　圓忠代杲明　融晃代眞海　融椿　杲覺　寶緣　覺永　俊忠　宗承　祐源

十二日、理趣三昧尊勝陁羅尼

俊忠　宗演代杲明　公尋番　杲覺　寶緣　嚴信　宗承　祐源　俊雄　瑤遍

十三日、理趣三昧尊勝陁羅尼

公遍　祐源　原助番　杲覺　寶緣　俊忠　嚴信　宗承　杲明　俊雄

公尋

十四日、理趣三昧尊勝陁羅尼

慶清　杲明番　杲覺　寶緣　覺永　俊忠　嚴信　宗承　円忠　祐源

俊雄　眞海　公尋　瑤遍

右、一七ケ日如此、於已後者、大般若當番・錫杖・理趣經・尊勝陁羅尼七遍、各可有讀誦之由、衆儀治定訖、

東山殿普請料

年貢寺納以前ノ催促延引ヲ請フ

公文寒川家光

三八三　上久世庄公文寒川家光書狀（折紙）

御普請析八貫五百文、可致奔走之由、地下ニ申付候之處、當年之事者、就風損之儀、御百性（姓下同）ホ無力過法式候条、有限御本役ホ之事ニ迷惑仕候上、臨時之儀雖被仰付候、聊緩怠ニてハ候ハね共、堅御侘事可申之通申候、可有如何候事ニ候之哉、所詮、先御年貢寺納之前者、御催促御延引候者、可然候哉と存候、庄家之事不可有其隱候間申候、以外ふる式共候、百性地下ニ堪忍仕候様之御成敗本望候、此ホ之趣、可有御披露候、恐々謹言、

（異筆）「文明十八」拾月廿九日　　寒河太郎三郎家光（花押）

公文所　御坊

三八四　上久世庄秋麥算用狀

（端裏書）「上久世庄秋麥文明十七年分算用狀　文明十八年十一月廿二日出之」

文明十七年分

上久世庄秋麥算用狀之事

文明拾七年分

合六石三斗九升二合内

現納　四石貳斗五升

三斗　倉付

庄未進分

庄未進分

二升五合　民ア　三升四合　辻彦二郎

一升　淨久　二升　牛瀨民ア

三合　四郎左衞門　八合　新六

一斗　弥五郎　一升八合　寶大

藏王堂

一斗七升　藏王堂

已上三斗八升八合

定殘壹石四斗六升二合

文明十八年十一月廿二日　　公文寒川太郎三郎家光（花押）　　四七四

三八五　上久世庄公文寒川家光書状（折紙）

百姓無力ニ依リ普請料辨ジ難シ

御普請新八貫五百文之事、先度被仰下候、地下へ申付候之處、當年之事者、百性（姓）之無力、以外之次第ニ候之間、堅御侘事雖申度候、寺如此之事ニ候之条、三百疋之分請取可申候、但、至三百疋も、年内之事者不及了簡候、來麦秋訖（迄）、預御催促御延引候之者、可畏入候由申候、此之趣、可預御披露候、恐々謹言、

催促延引ヲ請フ

（異筆）「文明十八」十二月八日　　公文家光（花押）

公文所
御坊

三八六　大島重吉地子錢請文

（端裏書）「大宮地請文大嶋九郎左衛門　文明十八年丙午十二　十一」

請乞申

東寺執行御坊敷之内、針小路大宮より西頰之敷地事、御百姓ニ請申成申候、御地子者毎年二季（七月初　十二月初）兩度各七百文宛必可致其沙汰候、都合壹貫四百文可進候、本者壹貫五百文よて候へ共、侘事申候て、一貫四百文定申候上者、若約月すき候ハヽ、堅可預御催促候、又家別ニ毎年一人宛人夫可進候也、仍請文之狀如件、

東寺執行坊敷地ノ地子二季ニ進納スベシ

家別一人ノ人夫ヲ進ムベシ

文明十八年十二月十一日　　大嶋九郎左衛門重吉（花押）

勾當御房

三八七　上久世庄公文寒川家光書狀（折紙）

尚々、小三郎方事、罷上御侘事申度候へ共、取乱候間、無其儀候、

就御使當庄小三郎前之事、來廿五日以前ニ、五分一之分五斗、寺納可申之

小三郎ノ未進

公文トシテ催促スベシ
公事徴符
庄主

由申候、相殘分之事ハ、來正月中まて預御扶持候之者、於私畏入可存候、若又無沙汰仕候之者、自是致催促、進納申さすへく候、返〻可預御心得候、然者、只今立符事、可被懸御意候、次御公事てうふ(徴符)ゝ事、今度自國之惣劇候て、于今不調候之間、今明日間ニ可進候、次先度五分一之如注文、寺納申候、前之事ハ御除候て、無沙汰已前之注文、此者ニ可給候、此方にて堅可申付候、事〻恐〻謹言、

(異筆)「文明十八」十二月廿一日　寒川太郎三郎家光(花押)

庄主御坊

公文書(所)御坊

三八八　上久世庄公文寒川家光書狀(折紙)

此外五分一之未進衆、來年正月中さいそく仕候て、秋より寺納可申候、此由可然樣ニ御披露懸存へく候、

五分一未進衆未進分ハ公文ヨリ納ムベシ
小三郎
利倉式部

利倉弥五郎方殘五分一三斗、同二郎太郎五分一八斗、來廿五日ニ、私より寺納可申候、此分可然樣ニ御披露候て、先〻たち不被懸御意候ハゝ、祝着ゟ候、

一小三郎前之事、五分一殘未進之内六斗、私より來廿五日ニ寺納可申候、此分御心得憑存へく候、

一利倉式ロ方之五分一分殘未進内貳斗、これも私より可進之候、此由能く御申憑存へく候、恐〻謹言、

(異筆)「文明十八」十二月廿一日　寒川家光(花押)

公文所御坊

三八九　下久世庄公文久世弘成書狀(折紙)

尙〻、御使立符此者ニ可給候、

普請料ノ未進

使者ノ召還ヲ請フ

御普請料足事、壹貫五百文分、明日明後日可致奔走候、相殘分之事ハ、春ゝまて御延引候て給候ハヽ、可畏入候由、名主方被申候、右之間御使事ハ、先被引召候て可給候、此分皆ゝ申されぬ候間、重而申入候、恐ゝ謹言、

（異筆）「文明十八」十二月廿四日　　公文　弘成（花押）

公文所殿
人ゝ御中

普請料ノ事

三九〇　上久世庄公文寒川家光書狀（折紙）

御普請料事、於度ゝ被仰下候間、堅申付候處、三百疋之分請候て申候、但至三百疋も、只今之事は難奔走申候、至來麦秋寺納可申之由、御侘事申候處、急度可預御催促御使候由承候、地下迷惑仕候、所詮、正月中之事、預御延引候者、其内ゝ地下御侘事之落居あるへく候哉、此趣可預御披露候、恐ゝ謹言、

（異筆）「文明十八」十二月廿六日　　公文　家光（花押）

上久世庄ノ未進

請人ヲ立ツレバ催促延引スベシ

公文所
御坊

三九一　久世上下庄未進年貢公事等條目案

（端裏書）「久世上下庄被仰下條目文明十九三月九日」

就久世上下庄高未進而上使被下条ゝ事

一小三郎年ゝ緩怠之間、庄内追出并家檢符（封下同ジ）、仍名主可記之事

一式部高未進之間、名主可記之事

一大夫五郎逐電歟、名主可記之事

一大夫堅申付而名主（不事行者、）記之事

一次郎太郎堅申付而不事行ハ、名主可記事

一巳年（十一人）未進ヨリモ増間、使可出使節入事

一當未進初申人數、先堅可有催促、就侘事、請人立者、秋マテ延引あるへき事

一七人去〻年ヨリモ減少間、秋マテ延引あるへし、但、吉請人立、請文申へき事

一去年下久世未進使可入事　　下久世庄ノ未進

一下久世去年未進、堅可有催促事　　他所ノ未進

一他所未進里坪可記之事　　同

一同地子岡与中尾相論号テ無沙汰曲事間、上使并公文下司相共、任理運而申付ヘシ、若兎角申ハ、下地勘落あるへき事　　岡ト中尾ノ相論

一上久世去年去〻年公事錢、堅可有催促事　　尺輪木

一上下庄大輪木以外減少間、公事名主前可出使入事（尺カ）

一野里名捨公事夫米、自公文所、去年無沙汰、堅可有催促事　　野里名捨公事

一柴近年減少間、其分堅可申付候、并名高者無沙汰事、堅可申事

一糠藁無沙汰、所詮、未進徴符調進可申事

一御普請祈去今分（去年一向）可申付事、若不事行者、於以後、公方御へ並ニ御引付あるへき歟事（去年ハ未進）　　東山殿普請料

算用状

一如根本筭用状（上久世）可進事

一小寺検符可開事

（紙継目）

三九二　久世上下庄未進文書

（端裏書）「久世上下庄年貢米未進請人等之注文　文明十八年分　文明十九年三月十二日注進之」

注進　上久世庄未進文明十七年乙巳歳分（栗川系光）

請人公文　五斗九升五合　　大夫

請人助大郎　一斗八升九合　　又三郎

請人公文　二斗九升六合　　刑ロ子三郎

請人公文　五斗九升七合　　小三郎

(一)久世上下庄未進人交名注文　上久世庄文明十七年分公文ノ請人

請民部孫左衛門　五斗九升　利倉弥五郎
請治部三郎四郎　一斗三升一合　辻彦次郎
請公文民門弥五郎　九斗三升四合　利倉式部
七升二合　下久世岡
請公文　一石二斗八升二合　次郎太郎
請藤次郎　一斗六合　右近跡
請公文　二石九斗四升　逐電左衛門次郎
請公文　二石三斗四升六合　大夫五郎
以上拾石七升八合
一　同文明十八年丙午歳分
請大郎左衛門　一石六斗九升四合　和田四郎左衛門
請又四郎　二斗二升六合　和田三郎衛門
同　四斗八升二合　同藏王堂分

逐電

文明十八年分

藏王堂分

請外林彌九郎　一石二斗八升一合　彦太郎
請彦太郎　一石四斗二升七合　外林弥九郎
請三郎衛門　八升九合　又四郎
請又四郎　一石一斗八升五合　正壽跡
請助　一石三斗七升　刑部大郎
四石三斗八升五合（文明十七年）又巳分九斗三升四合　式部
都合五石三斗一升九合内
二石　弥五郎請文
一石五斗　公文　請文
五斗　民部　請文
一石三斗一升九合式部　請文
請兵衛太郎　九斗二升九合　太郎三郎右近
請右近　八斗一升四合　兵衛太郎

請四郎左衛門　三石四升八合
請太郎二郎　衛門五郎　三斗一升八合
請兵衛三郎　二斗五合
同　二斗六升九合
請刑ロ太郎　八斗六升八合
請戀川八郎二郎　三石五斗五合
請公文　一石七斗七升四合
請ハヽノ助太郎　五斗七升六合
請新六　二石六斗八升五合
請民部　一石四斗三升八合
請井ロ　一石五斗九升五合
請公文　三斗七升九合
請ハヽノ兵衛五郎　一石七斗二斗二合

花藏庵分

和田　太郎左衛門
花藏庵分　次郎衛門
四郎衛門
同
左衛門五郎
和田　新六
大夫入道
又三郎
戀川　八郎次郎
藤次郎
弥六
職事　衛門
弥二郎

請二郎太郎　二斗九升
請二郎四郎　二斗一升九合
請兵衛九郎　二石八斗六升六合
請公文　八石九升七合
同　二斗七升
請衛門五郎和田太郎二郎　四石八斗一升一合
請公文　三石一斗
請弥七　七斗二合
請三郎衛門　六斗一升九合
請二郎四郎　一石六升七合
請民ロ　三石一升七合
請衛門五郎　二石一斗七升
請ハヽノ助五郎　一石六斗六升二合

頭田

又次郎
辻　弥三郎
源三郎
小三郎
同頭田
次郎衛門
二郎太郎
治部
牛瀬　民部
善阿彌
利倉　弥五郎
三郎次郎
衛門太郎

請治ロ　一石五斗六升六合　三郎四郎　辻　彦二郎
請新六　三斗二升　牛瀬　藤衛門
請公文　三石二斗　大夫五郎
請藤次郎　一石一升八合　二段公文下地　右近後家
請公文　一石八升五合　弥三郎

以上六十八石五斗四升三合

下久世庄文明十七八年分　下久世庄　文明十八年十七年未進事

一（經久）請岡　五斗　麦マテ　岡分　小五郎
請岡　五斗一升　失跡秋マテ　岡分　太郎次郎
請岡　一石四斗　麦マテ　大慈庵
九升八合　麦マテ　彦四郎

大慈庵

正久庵

一石二升三合　已午同不　同不新　浄金
八斗八升三合　已午已不　午不　弥五郎
一斗五升一合　午不已　正久庵

以上二石五升七合内
五斗　來廿日ニ納申ヘシ、
定殘一石六斗一升五合　請　公文
以上四石五斗六升五合

右、注進如件、
文明十九年三月十二日　納所乗慶（花押）
納所代　弘甚（花押）
上仕（使）法橋　祐成（花押）
公文所法眼（花押）

(二)上久世庄地下注進條々

麥ノ未進

公事錢

尺輪木

野里名捨公事夫米

（端裏書）
「條目自地下御返事」

自地下御返事條〻之事

一巳年ヨリモ未進増分人數拾人、堅被仰付候間、來夏以麦各未進内三石惡五月中ニ進納可申候、若無沙汰申候之者、堅可預御催促候、殘未進之事者、任請文、來八月廿五日以前、悉寺納可申候、

一御公事錢未進之事、去年分者、來秋まて御催促御延引候之者、可畏入候、去〻年分者、差日限請取可申候、

一尺輪木之事、堅可申付候、

一野里名捨公事夫米之事、以前之職事無沙汰仕候歟、雖然、至來秋、悉遂算用、寺納可申候、

一入柴減少之事、堅可申付候、

（紙繼目）

糠藁

普請料

算用狀

三原屋敷地子未進

(三)下久世庄他所未進人數里坪注文修理職田

一糠藁之事、至糠者、必寺納可申候、藁之事者、來秋(迄)訖御延引可畏入候、

一御普請料之事、去〻年之未進百疋者、預御免候者、可畏入候、去年分之事者、御書下之内、半分至來秋寺納可申候、相殘分者、預御免候ハ可畏入候、

一算用狀之事、認注進可申候、

一古寺御免畏入候、

一三原屋敷地子未進、涯分寺納可申候、

文明拾九年三月十一日　公文（寒川）家光（花押）
戀河平衛門尉光久（花押）
和田兵庫康貞（花押）
利倉民ア丞忠俊（花押）

他所未進人數里坪事
修理職田

（紙繼目）

牛甘里廿八坪　壹町　東土川方
　此内貳段　西土川本ゐこ作
　　岡方本所代管油代不出由ニ候、
　　日吉田
牛甘里九坪　壹段小壹斗六升竹田方寺戸
　　岡方年貢不納ニ候、
　　加茂田
牛甘里四坪　貳段貳斗四升梅林庵寺戸
　　岡方半濟納由ニ候、半濟納
　　山鹿田
牛甘里九坪　四段半五斗四升藏春庵同
　　岡方本役納由ニ候、
　　山鹿田
牛甘里四坪　參段半四斗貳升左近二郎土川
　　修理職田
牛甘里八坪　壹段壹斗貳升南方寺戸
　　公文方代管一向本役不納ニ候、
　　連光院田

牛甘里十四坪參段三斗六升奥坊同
　　同本役納ニ候、
　　連光院田
牛甘里卅五坪壹段一斗貳升弥四郎衞門土川
　　已上
　　文明十八年
一同十七年
　　水主寮田（主水カ）
牛甘里三坪壹段一斗貳升　兩堂寺戸
　　已上
　　文明十九年三月十二日　　弘成（花押）（久世）

三九三　上久世庄公文寒川家光書狀（折紙）

尚々、公事方錢之事、如御注文、堅可申付候、先日者御下向之御禮ニ參候處、御出之時ニて不懸御目候、無念候、

去年分算用狀ヲ進ムベシ
普請料ノ進納延期ヲ請フ
小三郎前ノ事

當庄去年御年貢算用狀之事承候、近日可認進之候、仍御普請新之事承候、先日自知(地)下以一書申候つる、來秋至御延引、可畏入之由申候つる、御許用(容)ニあつらり候者、本望候哉、次小三郎ゟ前之事、依申請、庄家安堵之事畏入候、但、田地作毛之事、不可叶之由承候、心得申候、雖然、田地當作悉召放候時者、未進之調法如何候哉、定而其元も可御侘事申候哉、於我〻も覺期(悟)外候間、一段可申入候、恐〻謹言、

(異筆)「文明十九」三月十八日　　寒河太郎三郎家光(花押)

公文所
御返報

三九四　上久世庄公文寒川家光書狀(折紙)

尙〻、定而地下よりも猶巨細可申候、

去八日之大水ニ、當庄東西之溝大儀ニ理(埋)候、井手龜井之事、此間連日ニ普請仕候、東田井之事者、明日より堀あけさすへく候由申候、事之外ゐる大

東西ノ溝埋ル

修理井料ノ下行ヲ請フ
立替井料ノ下行

儀候間、上使を下被申候て、井新ホ之事、可預御成敗候由、地下より申候、次春溝之事ハ、名主代共井新を引替候、地下無力仕候て、此間者引替仕者ゐく候、然者、普請なり候ハて迷惑仕候、井新之御下行よあつらり候て、溝井手を相堅度由申候、可預御披露候、恐〻謹言、

(異筆)「文明十九」卯月廿三日　　公文(家光)(花押)

公文所
御坊

三九五　上久世庄公文寒川家光書狀(折紙)

參石米

御書下条〻之事
一參石米麦秋訖(迄)請取申事、至時節、堅可申付候、若猶無沙汰候之者、注進可申候、可有御催促候、

公文分未進麥

一自分夏麦秋麦之事、今月中ニ可致奔走候、

假屋米

一假屋三斗五升、算用狀ニ不可入事承候、未覺悟伏候地下ニ相尋、重而可

公事銭
三原屋敷

申承候、
一御公事銭去年去〻年未進之事、可申付候、
一三原屋敷未進之事、同前、
此条〻、今月中之事者、耕作以下諸事取亂候、雖然、麦秋過候ては不可有曲候哉ニて候間、連〻可申付候、來晦日朔日前後、重而可被仰下候、自是も可申付候、返〻假屋米之事、靜とくしん仕候て、可申承候、恐〻謹言、

（異筆）「文明十九」五月十一日　　公文家光（花押）

公文所法眼
御返報

三九六　上久世庄公文寒川家光書狀（折紙）

東山殿様　御普請之事承候、御書下之趣申付候之處、地下より御侘事申候子細者、今時分耕作宍中ニ候、現夫之事御延引候様ニ、可預御調法候、不然者、御一獻祈之事承候、就地下無力之儀、先年被仰下候も、于今無沙汰申候

東山殿普請
料人夫

上、重而之事可及迷惑候、何も可然様ニ、御扶持可畏入候由申候、恐〻謹言、

（異筆）「文明十九」五月十九日　　公文家光（花押）

公文所法眼
御坊

三九七　上久世庄公文寒川家光書狀（折紙）

去廿七日之大水に、大井手并龜井、事之外損し候て、用水不下候間、連日ニ普請を申付候、西田井之水不被下候へハ、東田井も一向水ニ迷惑仕候、左候間、井新之事、此間爲名主代衆、色〻引替仕候處、重而此大儀出來候条、無戸方（途）之由申候、如何様之代物ニても候へ、貳百疋分、預御秘計度之由、自地下申候、委細者、此仁可申候、可預御披露候、恐〻謹言、

（異筆）「文明十九」六月晦日　　公文家光（花押）

大水ニテ破損セル大井手并ニ龜井ノ普請
西田井
東田井
井料

井料ノ下行ヲ請フ

公文所
御坊

〔百合文書を〕未完

大日本古文書　家わけ第十　東寺文書之六終

大日本古文書　家わけ第十　東寺文書之六（百合文書　を）

〔豫約價八百圓〕

昭和三十四年三月三十一日發行

編纂者　東京大學史料編纂所
發行者　東京大學
印刷者　株式會社精興社
發賣所　財團法人　東京大學出版會
振替口座東京五九九六四
電話小石川（85）〇八八〇

著作權所有